

放課後居場所づくり×西高割

発表要旨

函館西高校の存する西部地区は、高校生が無料で過ごせる場所が少ないことから、高校生の放課後に居てもいい場所「居場所」を増やすために、西部地区に多いカフェなどを中心に活動を進めた。活動中に地域の児童館において、高校生の夜間利用が実現した。現在は、域内循環について探究活動をしている「西高割」チームと連携を進めて活動をしている。

1. 背景と目的

函館西高校は放課後に教室が講習や部活動の活動場所となるため、生徒の居場所が少ない。また、西部地区周辺の商業施設や駅等は、観光客の利用が多いため生徒の居場所が少ない。一方、五稜郭地域は、複数の公共施設等に高校生の居場所が多くある。西部地区や駅周辺は有料の施設が多いため、安価または無料の居場所づくりを行い、西高生の幸福度をあげたいと考えた。

2. 方法

現在、高校生の居場所として、12店舗が1時間以上の滞在を許可してくれた。その店舗に「西高割」を導入できないかを交渉し、さらに居場所として定着させることができないか活動を進めている。また、西部地区のサードプレイスであり、西高生の探究活動で場所を借りている、「航路（旧街角 New Culture）」などとも連携を進めていけるよう、交渉している。

3. 結果

函館市の施策により、高校生の居場所は、児童館や公共施設など増えている。また、一部商業施設内に市が借り上げた居場所も開設されるようになった。このため、私たちの行う活動は、「西高割」探究チームと連携して、放課後の居場所として西高生へ提供いただくことになった12店舗に、「西高生への割引」を適用できないかを交渉予定である。

4. 結論

高校生が必要を感じている「放課後に居てもいい場所が『居場所』である」は自治体にも認知され、徐々に増えてきており、今後も居場所を増やす活動を続けていきたい。また、利用のルールづくりを行い、居場所として提供していただく店舗の迷惑にならないようにしたい。西高割の活動と連携して活動することで、域内循環を意識した高校生活を送れる西高生を増やしたい。

5. 今後の課題

西部地区で唯一の無料の居場所「まちづくりセンター」での高校生利用のガイドラインづくりと、各店舗における西高割との連携を模索する。居場所となる店舗と西高割の整理をしてマップづくりや周知も行う。西高生がその店舗を利用することで、街の人と出会う機会を創出し、西高割適用後の西高生の消費行動についても西高割チームと連携して調査を進める。

6. 参考文献

- ・函館市子ども未来部子ども健やか育成課 児童館の在り方（令和6年8月策定）
- ・『マガジンハウスローカルネットワークマガジン コロカル』 「リノベのススメ」 富樫雅行建築設計事務所